
◎町長行政報告

○議長（稲葉昭宏君） 日程第4、町長の行政報告を行います。

町長から報告の申し出がありますので、これを許します。

（町長 齋藤文彦君 登壇）

○町長（齋藤文彦君） 平成27年松崎町議会第一回定例会の開会にあたり、謹んで行政報告を申し上げます。

最近の報道を見ますと、企業倒産は24年ぶりの低い水準となり、就職内定率も高まり、企業業績も最高を記録するなど、アベノミクス効果がようやく表れてきたともいわれています。しかしながら当町におきましては、景気の回復を実感するのが、いまだ難しい状況であります。松崎町では、観光業を盛り上げることが景気回復の根幹であると思っておりますが、北陸新幹線の開業などもあり、前途にはまだまだ課題が山積しています。これからの町の魅力づくりに一層注力していかなければならないと、改めて感じているところです。

また、東日本大震災以降、強化している防災対策につきましても、引き続き整備を進め、住民が安心して暮らせるまちづくりを実践してまいりますので、今後とも行政諸般につきまして議員各位のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

次に、最近の町政の動向について概要を報告いたします。

1つ目は、西区避難タワーについてであります。西区避難タワーにつきましては、西区から事業休止の要望書が出され、その後事業執行が止まった状況となっておりますが、2月になり休止要望書が取り下げられましたので、改めて事業を進めることと致しました。議員の皆様には、いろいろご心配をお掛けいたしましたこと、改めてお詫び申し上げます。

2つ目は、地方創生事業についてであります。国は、「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、人口減少や少子高齢化に対応した、地方が行う事業に対して応援していくとしました。いま実施している「美しい村づくり」なども、まさにこれに合致した施策だと思っております。そのため、今議会で上程する補正予算に、先行事業として総合戦略の策定経費なども計上し対応していくことといたしました。

本日は、町営観光施設の入館状況についてなど2件についてご報告いたします。詳細は担当課長より申し上げます。

○企画観光課長（山本 公君） それでは、企画観光課から町営観光施設の入館状況につきましてご説明させていただきたいと思っております。資料ナンバー1をお願いします。1ページにな

ります。

まず、伊豆まつぎき荘の状況の記載がございますが、右側に累計、4月から1月までの累計ということで記載がございます。そちらの本年度、前年度の比較でご説明をさせていただきますと思います。

まず、利用人員でございますが、宿泊利用者でございます。423人増となりまして、1万5957人でございます。収支状況が中ほどにございますが、累計で収益の計、2億2623万6000円、前年度より1753万3000円増、108.4パーセントということになっております。

公債費、減価償却費を按分して加えた費用につきましては、下段の方にございますが、2億4346万5000円でございます。前年度より588万1000円の増、102.5パーセントとなっております。按分利益につきましては、前年度より1165万2000円改善をいたしまして、マイナスの1722万9000円の計上となっております。

2ページをお願いいたします。2ページ以降は町営の観光施設の入館、収支の状況でございます。まず、長八美術館でございますが、人数でございます。前年より743人増加をいたしまして、2万8789人、収支差額でマイナスの796万6000円でございます。前年度より209万4000円改善となっております。

重要文化財岩科学校でございます。1832人の増でございます。1万8319人。収支差額でございますが、マイナスの430万7000円でございます。前年度より149万1000円悪化しております。

3ページをお願いしたいと思います。明治商家中瀬邸でございますが、112人増加をいたしまして、1万5606人ということでございます。収支差額につきましては、マイナスの335万6000円ということで、前年よりマイナスが47万2000円増えております。民芸館並びに花の三聖苑につきましては、売上、収入で比較をさせていただきます。

民芸館につきましては、収入の合計がございますが、59万6000円減額となりまして、1086万9000円でございます。収支差額につきましては、マイナス259万7000円で、前年より120万2000円マイナスが増加しております。

最後のページ、4ページをお願いいたします。花の三聖苑でございますが、収入につきまして、マイナスの38万9000円でございます。2742万7000円でございます。収支差額はマイナスの743万円でございます。前年よりマイナスが133万5000円増加しております。1月末までの累計を見ますと、いずれの施設も利用人員が増加しております。伊豆まつぎき荘、伊豆の長八美術館で収支が改善させておりますけれども、それ以外の施設につきましては、マ

イナスということになっております。利用状況につきまして回復傾向がございます。今後も観光協会と連携した事業の展開あるいは「伊豆は一つ」ということの中なかで、伊豆半島全体、全部の市町連携をしまして誘客活動を展開してまいりたいと思いますので、引き続きご理解とご協力を賜るようお願いいたしまして、観光施設の入込み状況につきましてご報告をさせていただきます。

○生活環境課長（高橋良延君） それでは、行政報告の2番目、公営企業会計平成26年1月末経営状況について報告をさせていただきます。資料ナンバー2番の方をお願いいたします。横長に見ていただければと思います。

はじめに、水道事業会計の方でございます。本年度1月末収益につきましては、営業収益、営業外収益を合わせまして、①の欄です。1億2062万8000円、前年対比117万2000円減、1.0パーセントの減となっております。理由といたしましては、1月末現在の有収水量につきましては、営業用の使用は増加しておりますけれども、結果前年対比1万1505m³減となり、収益減となりました。

また、本年度会計制度の改正による予定収益を入れますと、収益の合計が④の欄です。1億3072万2000円、前年対比892万2000円、7.3パーセントの増となっております。

一方費用の方でございます。営業費用、営業外費用に予定費用を加えました合計⑦の欄でございます。1億1958万5000円、前年対比684万円、6.1パーセントの増となっております。

また、会計制度の改正によりまして、特別損失220万6000円を計上したことによりまして、その結果、差引純利益につきましては、893万1000円、前年対比12万4000円、1.4パーセントの減となりました。

続きまして、温泉事業会計でございます。はじめに収益の方ですが、営業、営業外収益を合わせまして、①の欄です。5071万3000円、前年対比107万7000円の減、2.1パーセントの減となっております。理由といたしましては、温泉の休止件数、これが増加していることによるものでございます。予定収益を加えました事業収益の合計、④の欄ですが、5253万7000円、前年比74万7000円の増、1.4パーセントの増となっております。

一方、費用の方でございますが、営業費用、営業外費用に予定費用を加えました合計、⑦のところですが、5076万3000円、前年対比273万6000円の増となっております。

また、会計制度の改正によりまして、特別損失70万9000円を計上したことによりまして、結果、差引純利益につきましては、106万5000円、前年対比269万8000円、71.7パーセントの減となりました。両会計とも本年度会計制度の改正で特別損失を計上したことによりまし

て、費用は増加しております。

水道事業につきましては、営業用の伸びによりまして、利益はほぼ前年並みとなっておりますけれども、温泉事業につきましては、休止件数の増加や新規加入者もないため、ただいま大幅な減益となっている状況でございます。

以上、1月末公営企業会計の経営状況についてのご報告を終了いたします。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で町長の行政報告を終わります。
